

京都教区時報

京都教区広報委員会
 (編集長 村上透磨)
 京都教区本部事務局
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
 ご希望の方は点訳ネット「レジ
 ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ
 んまでお申込みください。
 TEL・FAX 079-431-8601

3頁～4頁 社会への福音宣教 -福音宣教のツールとしてのSNSを考える-
 小教区評議会役員交流会 (福音宣教企画室)

2020年 司教年頭書簡を読む

『すべてのいのちを守るため』 教皇フランシスコの呼びかけに応えて

司教年頭書簡について、今年も一緒に考え
 てみましょう。

「すべてのいのちを守るため」というテー
 マは、フランシスコ教皇の昨年の訪日のテー
 マでした。教皇は、日本の司教団との会談の
 講話で、以下のように述べられています。

「ご存じかどうか分かりませんが、わたし
 は若いときから日本に共感と愛着を抱いてき
 ました。日本への宣教の望みを覚えてから長
 い時間が経ち、ようやくそれが実現しまし
 た。今日、主はわたしに、皆さんと同席する
 という機会を与えてくださいました。わたし
 は信仰の偉大な証人の足跡をたどる、宣教す
 る巡礼者としてここにおります。聖フランシ
 スコ・ザビエルが日本に上陸してから470
 年が経ちます。ザビエルが、日本におけるキ
 リスト教布教を始めました。彼を思い出しな
 がら、皆様と心を合わせて主に感謝したいと
 思います。その感謝は、その後何世紀にもわ
 たって福音の種を蒔き、熱意と愛をもって日
 本の人々に奉仕した、すべての人への感謝で
 す。その献身が、日本の教会に独特の性格を



教皇訪日 日本の司教団との会談

与えました。わたしは、聖パウロ三木と同志
 殉教者、また、数知れない試練の中で死に至
 るまで信仰をあかした福者高山右近のこ
 とを思い出します。迫害の中で信仰を守ろうと
 するこの献身のおかげで、小さなキリスト教
 共同体は成長し、堅固になり、豊かな実りを
 生みました。さらに、長崎の『潜伏キリシタ
 ン』のことも思い浮かべてみましょう。彼ら
 は洗礼と祈りと要理教育を通
 して、何世代にもわたって信
 仰を守ってきました。それ
 は、その地に輝く真の家庭教
 会でした。当人たちは意識せ



ずとも、ナザレの聖家族を映し出しているのです。

主の道は、神を忘れまいと努める忠実な民の日常生活の中で、ご自分がいかに『働かれる』かを示しています。沈黙の中に隠れておられますが、聖霊の力と優しさをもって、二人またはそれ以上が、主の名において集まるところには主がおられるということをお出し出させてくれる、生きた記憶です。あなたがたの共同体のDNAには、このあかしが刻まれています。それはあらゆる絶望に対する特效薬で、目を上げて歩むべき道を示してくれます。皆さんは、迫害の中で主のみ名を呼び続け、主がいかに自分たちを導かれたかを見つめてきた、生きている教会です。

希望に燃えた種蒔き、殉教者のあかし、時が来れば神が与えてくださるはずの裏りを待つ忍耐、これらが、日本の文化と共存できた宣教方法の特徴づけたものです。その結果、長い年月を経て、教会の顔が形づくられました。教会は総じて、日本社会からとても評価されています。それは、教会が共通善のために多くの貢献をなしたからです。日本の歴史と普遍教会の歴史の中で重要なあの時代は、長崎と天草地方の教会と集落群が世界遺産に登録されたことでも認められています。ですが何より、皆さんの共同体

の魂の生きる記憶として、あらゆる福音宣教の豊かな希望として、評価されるものです。

この司牧訪問のテーマは、『すべてのいのちを守るため』です。それは、わたしたち司教の奉仕職というものをよく表しています。司教とは、主によってその民の中から呼び出され、すべてのいのちを守ることでできる牧者として民に渡される者です。このことは、わたしたちが目指すべき現場がある程度決定してくれます。

この国での宣教は、インカルチュレーションと対話を希求するという点が特徴的でした。これによって、西欧で発展したものに對し、新しく独自の数々の様式が展開できたのです。周知のことですが、初期のころから、書物、演劇、音楽、あらゆる教材において、ほとんど日本語が使われました。この事実は、初代の宣教師が日本に對して抱いた愛情を示しています。すべてのいのちを守るとは、まず、この愛のこもった寛大な目をもって、神からゆだねられた民すべてのいのちを愛し、何よりも、この民を神から受けたたまものとして認めることです。愛されるだけで救われるからです。すがるだけで変えていただけるのです。これは、効果はあるものの副次的な別の考えではなく、すべてのいのちは無償の恵み

だという姿勢をとる助けとなる、具体的な行動規範です。すべてのいのちを守ることに福音を告げることは、切り離された別のものではなく、また相反するものでもありません。互いに呼び寄せ合い、必要とし合っています。どちらも、今日この国で、イエスの福音の光に照らされた信じる民の全人的発展を妨げうるものに、注意を怠らず警戒することを意味します。

日本の教会は小さく、カトリック信者が少数派であることは知っています。しかし、それが、あなたたちの福音宣教の熱意を冷ますようではいけません。皆さんに固有な状況において、人々に示すべきもっとも強く明白なことばは、普段の生活の中の目立たぬあかしと、他の宗教的伝統との対話です。日本のカトリック信者の半数以上を占める多数の外国人労働者を親切に受け入れ世話することは、日本社会の中で福音のあかしとなるだけでなく、教会があらゆる人に開かれていることの証明にもなります。わたしたちのキリストとのきずなは、他のどんな結びつきやアイデンティティよりも強く、あらゆる現実のもとに届き触れうるものであることを示すからです。」

教皇の講話の全文は、中央協議会のホームページで閲覧できます。

(瀧野正三郎)

社会への福音宣教

福音宣教のツールとしての

SNSを考える

小教区評議会役員交流会

2019年9月7日

京都教区の共同宣教司牧推進の一環として続けている「小教区評議会役員研修」は、2015年から年2回、春に研修会、秋に交流会として実施してきました。また、2016年からは「京都教区の福音宣教における5つの優先課題」に基づき3年サイクルで①教会と福音宣教の理解 ②教会共同体づくり ③社会への福音宣教 の3つのテーマを掲げ、研修と交流を重ねています。

2019年は、③社会への福音宣教の年として、もはや社会の様々な場面で生活の一部となっているSNS（ソーシャルネットワークサービス）を使った福音宣教について学ぶこととしました。テーマの性質上、今年は役員だけでなく、広報部員の方にも参加を呼びかけ、春の研修会では主にフェイスブックを利用したグッドニュース（福音）の発信について学びました。

春の研修の流れを受けて秋の交流会で

は、SNSを福音宣教のツールとして利用することについて考え、グループワークを通して実際に小教区やブロックにおいて、個人の体験であるグッドニュースを教会として公に発信できる文章にするための識別の作業を体験していただく機会としました。



大塚司教のお祈りと挨拶、企画室担当司祭の一場師の交流会のねらいの説明の後、午前中は「SNS概要」として、「心のともしび運動YBU本部」でSNSを担当され

ている岩佐康二氏（西院教会）に、ホームページやブログとSNSの違い、SNSの種類と特徴、SNS作成のポイントについて具体例を交えながらお話をいただきました。以下に要旨をご紹介します。

SNSを使って情報発信する時は、自己中心的な態度に陥りがちになるので、公（教会）のSNSは1人で行わず何人かでチームを作り、より良い意見を出しながら一緒に運営していくのがよい。（日本カトリック司教協議会2018年シン

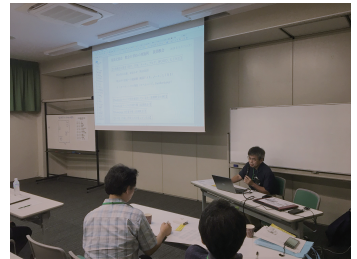
ポジウム「SNSと宗教」での阿部仲麻呂神父の発表を紹介）。

ブログを含むホームページ（HP）はストック型で、情報を溜めておくことができ、時間が経っても検索すれば見ることができる。一方SNSは多くの人にすぐに伝えたい情報を知らせたいときに使う。メールの一斉配信のようにメッセージを届けるプッシュ型である。常にリアルタイムで流れているため情報の寿命は短い。最大の特徴は拡散性で、面白い投稿は他の人により再投稿されどんどん拡散していく。このような特徴から、こちらが信頼できる団体であることが分かるようにまずHPを作成してからSNSに情報を流し、詳細をHPに掲載し、SNSで興味を持った人にHPを見に来てもらう、という流れにするのがよい。Facebook（フェイスブック）はフェイスブック社が提供しているサービスで、テキスト、写真、動画の投稿ができ、「シェア」機能で投稿が広く拡散されるのが特徴である。Twitter（ツイッター）はツイッター社が提供しているサービスで、140文字以内の短い文章に写真や動画を添えて投稿できる。投稿がリツイート（再投稿）されることでリツイートしたユーザーのフォロワーにも投稿が表示されるため拡散力が強い。

先に紹介したように「個人のSNSと

公のSNSとをしっかりと分けて、公のSNSはチームを作ってよりよい意見を出しながら運営すること」が非常に大切である。

午後からは、それぞれが持ち寄った個人的な「グッドニュース」を、SNSを使って教会として公に発信するまでのプロセスを実際に体験していただくグループワークを行いました。HPのある教会はもちろん、インターネットの環境がない教会、環境はあるが人手の関係でHPやSNSまで手が回らない教会も、グループワークでの情報交換によって、チームで取り組めば教え合うことができることや、ツールとしてのSNSの重要性について分かち合いました。そして、発信する内容やことばを識別するプロセスを体験する中で、公にグッドニュースを発信することば使いや文章の長さ、リスクについても具体的に気づくことが多くありました。また、リスクを恐れすぎると内容が当たり障りのないものになってしまふ、SNSを見る人にも選択の自由があるので極端に気を使わなくてもよいのではないか、などの声も聞かれました。短い時間でしたがグループワークを通して分かち合いの深まりが体験できたようです。



その後、小教区でのSNSを使った発信の実施例として、長岡教会広報部長、中原春生氏のレポートを聴きました。インターネットを使った広報部の取り組みの紹介の後、実際に使用しているソフトやアプリケーションの紹介、HP、Facebookページの作成、作業手順や更新について分かりやすく説明されました。写真や個人名の取り扱いなど、日ごろ注意をしている点、工夫している点も具体的に説明してください、今後小教区やブロックで取り組むことを考える上で興味深く参考になる内容でした。

最後に一場師が以下のように一日をふりかえり、福音宣教のツールとしてのSNSを考えようという熱気の中に交流会は終わりました。

「チームで取り組む大変さはあるが、皆が「よい知らせ」を伝えるという共通認識を持つことが大切である。作業の中でお互いの福音宣教観を知ることができ、それが共同体づくりにも役立つ。共同体の中には、インターネットやSNS

のことは分からないが文章を書くのは得意だ、写真や動画は撮影できる、という人があると思う。それぞれが得意分野を担当することでお互いに与えられた賜物を活かしあうことができ、福音宣教につながっていく。共同体として取り組めるところは、グループで楽しく取り組んでほしい。」

2020年は、3年サイクルのテーマ、「教会と福音宣教の理解」で行います。

訪日された教皇フランシスコのメッセージに応える形で、今年も春の研修会と秋の交流会を企画していきたいと思えます。
(福音宣教企画室)



2019年役員交流会

2月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 ㊦㊧

よく分かる聖書の学び

日 時：19日㊦ 10:30

講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

修 道 会

聖ドミニコ女子修道会

みことばを聴こう！

日 時：11日㊦㊧ 9:30~16:00

テーマ：「イエスのたとえ話」を考える

場 所：聖ドミニコ女子修道会 京都修道院

講 師：米田 彰男師(ドミニコ会)

対 象：青年男女 / 会 費：500円(昼食代)

締 切：7日㊦(事前申込要)

申 込：Fax. 075(222)2573

E-mail kyoto@dominic.or.jp

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：9日㊦ 14:00 洛星宗教研究館

22日㊦ 18:00 ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：13日㊦ 10:00 / 27日㊦ 10:00

河原町教会聖堂 2階楽廊

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話ミサと総会

日 時：18日㊦ 11:00~14:00

場 所：河原町教会 都の聖母小聖堂・
ヴィリオンホール

参加費：700円(昼食代)

申込要：Tel・Fax. 075(822)3548 岡本

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

日 時：9日㊦ 15:00~17:00

対 象：15歳~35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野

心のともしび 番組案内

ラジオ(KBS京都) ㊦~㊦ 朝5:55

㊧ 朝5:15

(ラジオ関西) ㊦~㊦ 朝5:00

㊧ 朝6:05

2月のテーマ「その時わたしは」

委員会の任命 (2020年1月1日付)

青少年委員会

京都カトリック青年センター

担当司祭 G. ランディ師、N. ホセ師

中学生会

担当司祭 ホン・ユンハク師、
小立花 忠師

中学生広島巡礼

担当司祭 ホン・ユンハク師、
小立花 忠師

高校生会

担当司祭 キム・テジョン師、
菅原 友明師、
ホセ・アントニオ、C師

アジア体験学習

担当司祭 G. ランディ師、N. ホセ師

聖書委員会

担当司祭 北村 善朗師

信仰教育委員会

担当司祭 ホン・ユンハク師

京都コリアンカトリックセンター

担当司祭 キム・テジョン師

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛に Fax.075 (366) 6679 か honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

尚、Fax 番号が変更になっています。

※ 4月号の原稿締切り日は2月26日㊦です。

大塚司教の

2月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日⊕ 10:00 故パウロ古屋司教命日
衣笠墓参
- 2日⊕ 9:00 九条教会ミサ
- 4日⊕ 14:00 福音宣教企画室
- 5日⊕ 14:30 中央協 財務委員会
- 6日⊕ 10:00 中央協 常任司教委員会
- 8日⊕ 9:30 洛星高校 卒業式
- 9日⊕ 9:00 津教会ミサ

- 13日⊕ 11:00 聖家族幼稚園 聖堂訪問賛美式
(河原町教会)
- 16日⊕ 13:30 京都教区女子奉献生活者の会
講話・総会(河原町教会)
- 17日⊕-21日⊕ 2020年度 定例司教総会
(中央協)
- 23日⊕ 9:00 桂教会ミサ
- 25日⊕ 11:00 司教顧問・モデラート
合同会議(河原町教会)
16:00 青少年委員会(河原町教会)
- 28日⊕ 10:00 ノートルダム女学院高等学校
卒業式
- 29日⊕ 10:00 京都聖母学院 高等学校
卒業式

京都カトリック青年センターについて

(田辺教会 松浦 隼人)

『本当の意味で充実して生きるには、霊的な呼吸を学ぶ必要があります。祈りと黙想を通して、心の動きを通してわたしたちに語りかける神に、耳を傾けることができます。また、愛のわざ、奉仕のわざによって他者にかかわる、外的な運動も必要です。この内的外的な動きによってわたしたちは成長し、神はわたしたちを愛しているだけでなく、わたしたち一人ひとりに使命を、固有の召命を託しているのだと気づきます。』

これは先日の教皇と青年の集いにおいて教皇様が青年に向けて仰られた言葉です。

青年センターは様々な活動を通して、青年の霊的呼吸の援助およびそのための場を提供すると共に、私たちスタッフ自身も青年と一緒に神様から受けた召命に

【青年センター-HP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

向き合いたいと考えています。

青年の合宿であるYESや春プロ、高校生から参加できる一日企画、中学生会のリーダーなど、多くの企画があります、関わり方は自由で多様です。年に2回キリスト教映画の鑑賞やロザリオの祈りを全国の青年と行うなど他教区との交わりも大切にしています。しかしながら、教区内で声の届かない青年も少なくありません。私たちの活動をお近くの青年にも伝えて頂ければ幸いです。皆様のご協力をお願い致します。



青年センターあんでな